

# 郡山都市圏総合都市交通体系調査

## 1. 調査の背景と目的

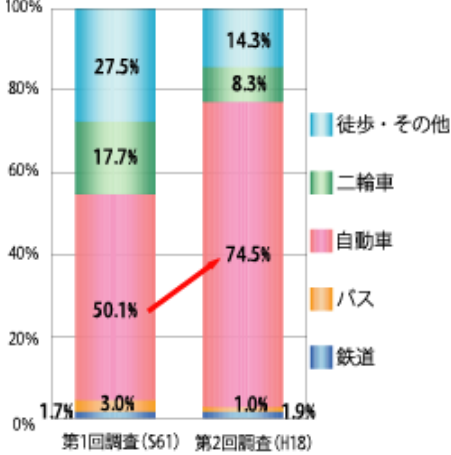
第1回郡山都市圏総合都市交通計画調査(昭和63年)から約20年が経過し、市街地の拡大や中心市街地の空洞化などによる**都市構造の変化**、通勤圏域の拡大による自動車利用の増大および公共交通利用の低下などによる**交通行動の変化**、高速道路や福島空港の整備などによる**広域交流の進展**、市町村合併や地方分権による**地方生活圏の自立・連帯の必要性の高まり**などの都市圏を取り巻く環境の変化があったことから、郡山都市圏の都市交通計画の見直しとして、新たな総合都市交通マスタープラン及び実現化方策を策定するものです。

## 2. 調査スケジュール

【平成18年度】 実態調査 都市圏の理念、将来像、目標
【平成19年度】 現況、都市構造のあるべき姿 都市圏構造、マスタープラン素案
【平成20年度】 都市交通マスタープラン素案詳細版 現況需要に基づく評価
【平成21年度】 都市交通マスタープランの評価
【平成21～23年度】 実現化方策(モビリティマネジメント、自転車etc)

## 3. 交通実態調査結果(一部)

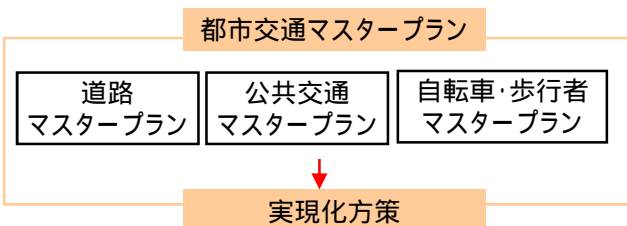
交通手段からみた人の動き



第1回調査に比べて自動車利用が約24ポイント増加しています。

## 5. 都市交通マスタープランの策定

2030年に目指すべき都市構造の骨格を形成する交通体系を基に、将来交通計画を策定します。



## 4. 都市構造の設定

### < 都市交通の目標 >

- 圏域内外と広域に交流しやすいまち(長距離移動が楽なまち)
- 常に円滑に安心して移動できるまち(確実に常時移動できるまち)
- 環境にやさしく誰もが移動しやすいまち
- (交通弱者でも安全で気軽に移動できるまち)
- 日常生活で移動が少なく暮らせるまち
- (都市・田園地域において遠出しなくても暮らせるまち)
- まちなかに賑わいのあるまち
- (まちなかに人が集まる快適な空間があるまち)

### < 都市構造の設定 >

